鹿児島の自然だより　第 132 号　　平成 29 年５月１日　鹿児島県立博物館発行

鹿児島の植物 64

栗野岳周辺の植物

植物担当　久保 紘史郎

栗野岳は霧島山の西端にあり，霧島山のなかでも，最も古い時代にできた山です。地質が古いことから，えびの高原周辺とは異なる植物も多数みられます。また，近くには牧場など草原地帯も広がっており，草地に生える珍しい植物も知られています。今回は，この時期に観察される植物を紹介します。

ジロボウエンゴサク（ケシ科）

４～５月に赤紫色の花を咲かせます。地下には１㎝ほどの塊茎があり，そこから細い茎が数本伸びています。名前のジロボウは，この種を次郎坊，スミレを太郎坊と呼び，お互いの花を絡め，引っ張り合って勝負した遊びから来ています。エンゴサクは，中国の漢方薬が名前の由来と言われています。

サクラスミレ（スミレ科）

スミレ科の多年草で，４～５月に薄紫の花を咲かせます。花弁が桜のようにくぼむことが名前の由来です。花が大きく，美しいことからスミレの女王と呼ばれることもあります。

サクラソウ（サクラソウ科）

やや湿った原野に生育する多年草。鹿児島県内では沢原高原だけに生育しています。個体数は極めて少なく，県内では絶滅が危惧される植物です。花期は４～５月。

ミヤマハコベ（ナデシコ科）

林床などに生育しています。人里近くでよく見られるコハコベやミドリハコベに比べて，花が大きく，よく目立ちます。花弁は５枚ですが，深く切れ込むため 10 枚に見えます。花期は４～７月。